

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人かながわアドバンスサポート

② 施設・事業所情報

名称：小規模保育事業ベビーぽけっと松風台	種別：小規模保育所A型
代表者氏名：野澤美樹	定員（利用人数）： 19名
所在地：横浜市青葉区松風台14-59	
TEL:045-532-3405	ホームページ：なし
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：学校法人原田学園	
職員数	常勤職員： 9名 非常勤保育士 2名
専門職員	保育士 7名
	調理員 1名
	事務員 1名
	園長 1名 主任 1名
施設・設備の概要	保育室 1室 園庭 代替地 松風台公園
	調理室 1室 冷暖房付き

③ 理念・基本方針

ベビーぽけっと松風台

◆保育理念

”すべては子ども達のために”を合言葉に、子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼され 家庭的で地域に愛される保育所を目指す。

◆保育方針

{自己受容 自己発揮 他者支援}

自分の力や環境を理解し受け入れ、自分を愛して大切に思う心を育み『自己受容』

挑戦する気持ちを持ちつづける、常に前向きな姿勢を忘れずに『自己発揮』

一人では生きてはいけないことを理解した上、他人の気持ちを思いやれる、素敵な人間になってほしい『他者支援』という方針で保育を実践してまいります。

◆年齢別 保育方針

0歳児 保育者の愛情豊かな関りを通して、信頼感の芽生えを養い、心身ともに健康に過ごす

1歳児 自然や周囲に興味を持ち、十分に身体を動かし、歩行や探索を楽しむ

2歳児 生活や遊びの中で自我が育つように関りを持ち、想像力を広げながら集団活動に参加する

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

・「ベビーぽけっと松風台」は東急田園都市線青葉台駅から徒歩15分、バスはなく、松風台という高台に立地しています。保護者は車で通園し、台地に住む住民は自転車を使います。0歳児から2歳児まで保育する乳児専門の小規模保育事業A型です。

3歳以上は系列の「みたけ台幼稚園」「シャルール保育園」「どうぞのひろば保育園」に進級する子もいます。

・本園は敷地、建物とも横浜市所有です。待機児童解消のために作られた小規模保育事業の施設です。建物は軽量鉄骨造り延べ99平米、保育室は59平米で平屋です。園内・園外補修などは市の許可が必要です。土地はフェンスで仕切られているだけで周囲は市有地です。園庭は駐車場になっており、道の向かいにある広大な松風台公園〈2,803平米〉を市は園庭の代替地として使用を認めているのです。

・場所が入園のしおりによれば『山の上』にあるため、雪が積もったり、凍結したりした場合は職員が雪かき、解凍の仕事をを行います。車が滑って登れないくらいの坂道の上った、頂きに立地しているのです。反面、周囲は何も遮るものがなく、道路は周辺の住宅地の車が通る程度です。

・開所時間は朝7時30分から夕方18時30分まで、土曜保育もあります。

・運営法人は学校法人原田学園〈本部横浜市青葉区みたけ台 理事長岡崎順子〉は昭和48年幼児教育を担うみたけ台幼稚園を開園、6千人を超える子どもたちを育て、平成25年横浜保育室を開園〈後27年認可保育所どうぞのひろばへ移行〉、27年小規模保育のベビーぽけっと松風台、平成30年シャルール保育園を開設しております。幼児教育の専門機関です。

【園の特徴】

・乳児専門の小規模保育事業所です。横浜市の要請で待機児童解消のために8年前に開設し、「すべては子どもたちのために」を合言葉にして、一人ひとりの子どもたちに今、何が必要か、を職員全員で話し合いながら、愛情をもって保育にあたっています。子どもたちが初めて会う大人〈保育者〉以外の人たちに、確かな信頼が育つことが保育園の大切な役割と思い、お子様の成長を保護者とともに喜び合い、日々の暮らしの中で、子育ての経験と培ってきた保育技術を活かし、役に立ちたいとの願いから保育園を運営しているのです。

・本園の定員は0歳児が3名、1、2歳児が各々8名ずつ、計19名です。

・小規模保育A型の開設基準は定員19名以下、保育士は全員有資格者、人員は配置基準+1名、完全給食の提供、連携施設があることなどで、市が認定します。

・0歳児が3名と少ないのは、待機児童の多くは1歳児に集中する傾向があり、1歳児を新しく5名入所させるという政策的な意図があります。

・園長はみたけ台幼稚園の教諭を経験しており、保育園の2歳卒園児が幼稚園に進級してきた場合、保育園出身児童の生活習慣の習得レベルの高さに驚いたという経験を持っています。同じ3歳児でも幼稚園にはじめて学び始めた児童との差に驚き、保育園で学ぶ意義の大切さを感じたと、今後の保育に情熱を燃やしています。

⑤ 第三者評価の受審状況（事務局記載）

評価実施期間	2022年10月28日（契約日）～ 2023年2月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

【優れた保育の取り組み】

1. 全員が子どもを見守る、小規模保育の良さを十分に発揮している

乳児専門の本園には保育士が基準を超えて配置されており、保育室が1部屋で、年令別の区切りは低いクッション材を使った間仕切りのみです。したがって子ども全体の動きが丸見えの状態です。うつ伏せになった子どもなどすぐその状態が保育士の誰かに分かるのです。その点では全員で子どもを見守ることができているのです。子どもと向き合えることによるスキンシップの濃厚さも、人数が少ないことによるアットホームな雰囲気も、保育士が全員有資格者ということもあり、差別の起こらない園になっています。

2. 事故を未然に防ぐ 職員作成の「ヒヤリハット通信」

ケガなど事故を未然に防ぐ方法として、職員の感覚を敏感にするために「ヒヤリハット通信」を1、2号出し、年度内に3号まで出す予定です。写真付きで、ヒヤリハットのケースと、それに対する職員のとるべき未然の対応を掲載しています。

1号では、月齢で幼児になった子のいる本園で起こりうる、・子どもが門から飛び出ししまうケース、・子どもだけで自転車に残り、倒れてしまうケース、・一人で階段を降り始めてしまうケース、など日常起こりうる5ケースを取り上げ、防止策を職員が考え、工夫しています。2号では、・暑くなったアスファルトの上にビニールシートを敷き、その上にゴムプールを置き水遊びする時、子どもたちは走り回るので走らない約束をする、・子どもは数センチの水位でも溺れる可能性があり、乳児は頭が重いので転倒しやすく、そのために水は少なくしますが、監視員をより多く配置させている、など、ヒヤリとする、ひよとすると大きなケガになるかもしれない事例を写真や絵で5ケースあげ、職員が同じことが起こらないように知恵を出し合って、工夫して対策を説明しています。小さなヒヤリとしたことがやがて大きな事故につながらないように、安全な事故のない保育園にしたいという願いからの優れた企画です。今後3号まで出る予定です。

3. コロナ禍でも提携校との交流が盛ん

学校法人原田学園には、幼稚園1、認可保育所2、乳児専門の保育所1、と幼児教育の種類異なるバラエティのある施設を持ちます。コロナ禍で過剰ともいえる交流自粛で他園との交流がなくなり、子どもの大切な発達特性に陰りが生じかねません。

本園はこの3園とは慎重に、大胆に相互交流を続けてきております。どうぞの広場で「獅子舞」を見学したり、ベビーぽけっとの卒園児の多くが進級するみだけ幼稚園での授業見学、足りない保育士の代行を派遣したり、提携施設のメリットを十分にいかした交流を続けてきたのです。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回初めて第三者評価を受けましたが、園の事を振り返るきっかけとなりました。園の事を知らない方の一から見ていただくのは本当の意見であり、園の足りないところや良いところを教えていただけたと思います。また、気づかなかった点も教えていただけたと思います。良い面はこのように思っていたらと解釈し、更にその面が活かせるように取り組んでいけたらと考えています。今まで私たちが子どもたちに対して関わってきたことや内容が、このように文書化されることにより改めて振り返られました。評価の内容を考えているときに当園では実施していないがこれから行ったほうが良いこと、ここにもう少し力を入れるべきことなどの反省する点も見えてきました。そこが第三者評価を受けるまで分からなかった事なので、とてもよかったと感じています。いつも職員間で行っている反省も次への課題にしていますが、細かく評価が分かれているのを見ると、とても大事な作業であって、それをしっかりと行うことで保育が生きてくると思いました。今回評価を受けたことでマニュアルの再確認も大事な作業の一つであると再確認できたので、読み合わせなどの機会も増やせればと考えています。保護者に対しての行事以外の、意見が言える自由なアンケートを実施していなかったのも、機会を見つけて意見を聞ける場が作れたらと考えています。これをきっかけに園のことがもっと保護者に伝わるといいなと思います。今回は良い経験になったと思います。ありがとうございました。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり